



は ふ
渡辺綱と破風のない家

昔、尼崎の常吉に多田源氏の四天王の一人渡辺綱(わたなべのつな)が住んでいました。京の羅生門で鬼が出て悪さをするというので、綱は鬼退治に向かいました。深夜、現れた鬼と戦った綱は、鬼の右腕を切り落としましたが、鬼は逃げてしまいました。常吉に帰った綱は門戸を閉じ、鬼の腕を屋敷の奥に隠し七日間の物忌みをしました。その最中のある晩、渡辺の里よりおばが訪ねてきて家に上げてほしいと頼みました。綱は最初のうちは断っていましたが、邪険に扱うことができず、招き入れました。

「噂に聞いた鬼の腕を見せてほしい」とおばに頼まれ、綱は仕方なく鬼の腕を見せました。すると、おばはみるみるうちに鬼へと変わり、その腕をつかむと鬼は破風(煙を抜くためにあけてある穴)を蹴破り逃げてしまいました。それ以来常吉では屋根に破風を造らないようになったということです。

渡辺綱(953~1025年)は源氏物語のモデルといわれている源融(みなもとのとおる)の子孫です。綱は摂津源氏の源頼光に仕え頼光四天王として有名になりました。四天王のうちには、金太郎で馴染みの坂田金時もありました。綱には多くのエピソードがあり、とくに有名なものでは、酒呑童子の退治や茨木童子の腕を名刀髭切(ひげきり)で切ったという話などがあります。

(参考:『尼崎市史 第10巻』渡辺久雄/編 尼崎市役所・『なにわ大坂をつくった100人 古代~15世紀篇』関西・大阪21世紀協会/編 澤標)

◆ **鬼について**

鬼のイメージで思い浮かぶ姿としては、頭に角があり、寅柄のパンツをはいているものが一般的ではないでしょうか。これは陰陽道の考えから来ており、鬼は丑・寅の鬼門の方向から出入りするので牛のツノがあり、寅の皮のパンツをはいているのだそうです。

しかし、人々の思い描く鬼の姿は時代や場所によっても様々でした。目に見えないもの、感染症などの病気、海賊や国家の命令に従わない反逆者など、得体のしれないものや理解できないものを鬼とすることで、人々は心の安定を手に入れていました。鬼は悪者という印象も強いですが、なまはげなど地域の人々を守っている神としても存在しています。鬼は見る人によって姿や印象を変える表裏一体の存在だからこそ、人々の心に根付き、今日まで息づいているのかもしれない。

(参考:『桃太郎は盗人なのか?』倉持よつば/著 新日本出版社)

● **「鬼」についてならこんな本●**

『鬼とはなにか』戸矢学/著 河出書房新社 212180790

『茨木童子』大橋忠雄/著 明石書店 211111076

『おにさんばなし』大泉書店/編集発行 221710601

＜図書館の休館日＞ 印の日はお休みです

2月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
⑦	8	9	10	⑪	12	13
⑭	15	16	17	18	19	20
⑳	22	㉓	24	25	26	27
㉘						

3月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
⑦	8	9	10	11	12	13
⑭	15	16	17	18	19	㉒
㉑	22	23	24	25	26	27
㉘	29	30	31			



2月:如月(きさらぎ)

食べ物:カラシナ、ナガネギ、フキノトウ、イヨカン、ハッサク、アズキ、ナツウ
 植物:パンジー、ボケ、ローズマリー、ヒナギク、クロッカス、フクジュソウ
 季語:節分、ウグイス、梅、早春、初春、ミモザ、薔薇の芽

開館時間 午前9時~午後8時(日曜・休日(○)は、午後5時15分まで)

※「ほうれんそう」第439号(令和3年1月1日発行)1ページ「五兵衛さんのお墓」の記事に誤りがありました。読者の皆様ならびに関係者の皆様には深くお詫び申し上げます。 9~10行目(誤)武庫之荘1丁目(正)武庫之荘5丁目

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、緊急事態宣言
発令中は、北図書館で実施する行事を中止いたします。
参加を予定されていた皆様には申し訳ありませんが、ご理解と
ご協力をお願いいたします。



人形劇

(再掲)



【日時】 2月23日 (火・祝)
10:00~11:00

【場所】 3階 集会室

【対象】 子どもとその保護者 (先着50名)

※連絡先確認のため、入場時に図書貸出券が必要です。

※急遽予定を変更し、中止となる場合がございますので、
ご了承ください。

図書館をご利用の皆様へ

- 37.5度以上の発熱や、咳・咽頭痛等の症状がある場合は
来館をお控えください。
- マスクの着用や咳エチケットの徹底、手指の消毒、ソーシャル
ディスタンスの確保など、感染拡大防止にご留意ください。
- 大きな声での会話はご遠慮ください。

今年の節分は2月2日 (火) です。



< 2月展示のご案内 >

一般大展示 「歴史本」

2階展示 「尼崎今昔物語」

障がい者と高齢者向けの朗読会

【日時】 2月17日(水) 午後2時から1時間ほど
【場所】 3階 集会室
【内容】 『藤十郎の恋』 菊池 寛/著

朗読はボランティア「ま・どんな」のみなさんです。

※ 状況により、内容の変更・中止になる可能性があります。

人を読む 橋本治

1948～2019年。東京生まれ。東京大学文学部卒業。『宗教なんかこわくない!』で新学芸賞、『蝶のゆくえ』で柴田錬三郎賞、『草薙の剣』で野間文芸賞を受賞。『桃尻娘』『初夏の色』ほか著書多数。

『おいぼれハムレット』

橋本 治[著]/河出書房新社

“「長ろうべきか死すべきか」で評判を取りました、講釈種の後日譚でございます”シェイクスピアの古典『ハムレット』を題材に、第一夜から第三夜を落語調で綴る。雑誌『文藝』へ掲載されたものに書き下ろし・解説・特典インタビューを加え、単行本化。

『橋本治のかけこみ人生相談』

橋本 治[著]/幻冬舎

著者曰く、幸福とは「余分なことを考えなくてもすむ状態」である。自分の“幸福”を求めて、仕事・親子・夫婦・人づきあいについてのさまざまな悩みを持つ相談者への橋本流の処方箋に、生きる気力がわいてくる一冊。『幻冬舎plus』連載をまとめたオリジナル文庫。

『「わからない」という方法』

橋本 治[著]/集英社

小説から編物、劇作・演出と活躍する著者は、「わからない」からあらゆることに挑戦する。“「自分はどうわからないか」これを自分の頭に問う時、はじめて「わからない」は「方法」となるのである。”「わかる」「わからない」ことについて著者が語るエッセイ。

『笛吹童子』

橋本 治[著]・北村 寿夫[原著]/講談社

時は戦国、野武士の大軍に城と家族を奪われた城主の息子、萩丸・菊丸は、野武士の頭・赤柿玄蕃を討つべく、生き残った家臣たちと合流するが……。ラジオドラマを単行本化した原作を著者が児童向けに加筆・修正した、正義と悪が織りなす波乱万丈の物語。

【小学3～4年生から】

1977年『桃尻娘』にて第29回小説現代新人賞佳作入賞を振り出しに、イラストレーターから文筆業へ。小説、評論、エッセイと幅広く活動し、古典文学の現代語訳・二次創作にも取り組んだ。脚本や作詞だけにとどまらず編み物にも才能を発揮、『男の編み物、橋本治の手トリ足トリ』を出版するなど、多方面で活躍。2019年1月逝去。

児 童 室 2 月

おはなし会



土曜日

おひざのうえのおはなし 午後2:00~
 小さい人(ようちえん) 午後2:15~
 場所: 3階集会室

2/20(土)

● おひざのうえ

「ぐるぐるちゃんとふわふわちゃん」
 「やまのおふるやさん」

● 小さい人

「でんしゃにのって」
 「おむすびころりん」

状況に応じて
 中止になる
 可能性があります。



水曜日

あかちゃんひろば

(第1・第3水曜日)

場所: 1階絵本コーナー

2/17(水)

午前11:00~11:20

0歳~2歳くらいのお子さんと
 保護者向け

赤ちゃん絵本、わらべうた、手遊び



日曜日

(第2・第4日曜日)

場所: 1階ロビー

2/14(日)、2/28(日)

午前11:00~11:20

2歳くらいから

季節の絵本や紙芝居など

2

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14 	15	16	17 	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28 						



今月の展示

『ふゆのえほん』